発行 ： 2007年11月

Global Mix

グローバルミックスの現況

特別勘定（変額保険用） 月次運用報告書（2007年10月）

日ごろは格別のお引き立てを頂き、誠に有り難く御礼申し上げます。
2007年10月における特別勘定（変額保険用）の運用状況をご報告致します。
なお、毎月の運用状況は、弊社ホームページにおいてもご覧いただけます。

ホームページアドレス http://www.axa.co.jp/life/

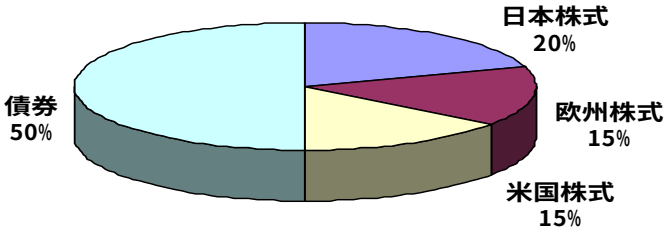
特別勘定の運用方針

- 日本国債をはじめとする債券及び日本・米国・欧州の株式に分散投資することにより、中長期での資産の安定的な成長を目指します。為替リスクは、原則として、フルヘッジします。
- 基本的な資産配分は、株式50%程度、債券50%程度とします。
- 特別勘定の運用は、各投資信託（ファンド）の買付けを含め、アクサ生命保険株式会社ファンド・マネジメント部が行います。
- 特別勘定の運用においては、アクサ・グループの運用会社（運用協力会社）の運用するファンドを買付けます。運用協力会社およびファンドは、今後予告なく変更される可能性があります。変更については、随時お知らせいたします。
- 各ファンドの資産配分比率は、金融情勢、経済動向などにより変更することがあります。

目次

特別勘定の運用方針	1
運用協力会社のご紹介	1
運用環境について	2
特別勘定の資産内容について	3
各ファンドについて	4-6
注意事項	6
契約月別の運用実績の例	7-9

（グローバルミックスの資産配分比率）



＊上記は設定当初の資産配分比率です。
＊資産配分比率は、将来的には変更されることがあります。

運用協力会社（ファンドの運用会社）のご紹介

■アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社

アクサ・ローゼンバーグは、マルチ・エクスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

・当該資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
また、予告なしに当該資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・当該資料は、当社の変額保険の運用状況などを開示するためのものであり、生命保険契約の勧誘を目的としたものではありません。
・当該資料の運用実績に関する内容は過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
・当該資料に記載されている各表にある金額、比率等はそれぞれの項目を四捨五入等をしていますので、合計等と合致しないことがあります。
・アクサ生命保険株式会社 プロダクト部は、2007年11月1日付をもって、ファンド・マネジメント部に名称を変更致しました。

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1－17－3 TEL 03-6737-7777（代表）
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

運用環境について(2007年10月)

【日本株式市場】

■ 当月の日本株式市場は月初に発表された日銀短観で景気の底堅さが確認され、上昇して始まりました。11日には米格付け会社ムーディーズによる日本国債格上げが発表され、日経平均17,488円97銭の高値をつけましたが、中旬以降米国における信用力の低い個人向け住宅融資（サブプライムローン）問題により金融機関の損失が相次いで発表されたことや円高が進行したことなどから、10月25日には日経平均16,199円02銭の安値をつけました。その後月末にかけては好調な決算発表を背景に日本株式市場は前月比ほぼ横ばいのレベルまで回復しました。日本株式市場はTOPIXが+0.21%, 日経平均が▲0.29%となりました。需給面では3ヶ月ぶりに外国人投資家が買い越しました。ただし金額は約2,300億円と小幅な上、月末時点先物ポジションでは売り越しました。また事業法人の自社株買いによる買い越しも続きました。一方、売り主体は信託銀行でした。個人は月間トータルでは約2,000億円の売り越しましたが、第3週と第4週合計は約3,100億円の買い越しで、月後半にかけてセンチメントが好転しました。

■ 東証33業種の月間上昇率上位3業種はその他製品（+12.27%、以下配当含まず）、証券、商品先物取引業（+6.28%）、銀行業（+5.23%）、一方下位3業種は鉄鋼（▲11.95%）、医薬品（▲6.90%）、水産・農林業（▲5.75%）となりました。

【米国株式市場】

■ 当月の米国株式市場は全般的に上昇しました。主要株価指数の月間騰落率は、S&P500種株価指数は+1.48%、ダウ平均株価は+0.25%、ナスダック指数は+5.83%となりました(いずれも現地通貨ベース)。

■ 月前半は、米国における信用力の低い個人向け住宅融資（サブプライムローン）問題に関する損失見込み額の発表で悪材料が出尽くし、また予想を上回る9月の米国雇用統計などの好材料が重なり、経済指標なども堅調であったことから米国株式市場は上昇しました。

■ 月中旬には、9月の住宅統計から住宅市場の調整が依然続いていることが確認されたことや、原油価格の高騰などを嫌気し、一度大きく反落したものの、その後月末にかけてはマイクロソフトなどを含めた企業の決算が予想を上回ったこと、また31日に7-9月期実質GDP速報値が、前期比年率+3.9%と市場予想を上回り、特に懸念されていた個人消費が堅調であったことや、月末の米連邦公開市場委員会(FOMC)による利下げ幅も予想通り0.25%(4.75%→4.50%)であった事なども米国株式市場の回復に貢献しました。

【欧州株式市場】

■ 当月の欧州株式市場は上昇しました。主要株価指数の騰落率は、MSCI欧州株価指数は+1.68%、FT100指数は+3.94%、仏CAC指数は+2.31%、独DAX指数は+2.01%となりました(いずれも現地通貨ベース)。

■ 月前半、大手金融機関が、米国における信用力の低い個人向け住宅融資（サブプライムローン）問題による損失額を発表したことから、不透明感が後退し、株式相場は上昇しました。また、米国の堅調な経済指標の発表により、米国景気減速懸念が後退したことも欧州株式市場の支援材料となりました。

■ しかし、月中旬にかけてはスウェーデンの通信機器メーカーの予想を大幅に下回る企業決算が発表されたことや、加えて大手銀行の米国住宅関連損失額が予想を上回る懸念が一層深まったことを背景に反落しました。

■ 月後半には、電気通信や自動車関連企業などが好決算を発表したことや、原油・商品市況の上昇を背景に原油関連銘柄や鉱山銘柄が欧州株式市場を牽引し、反発しました。なお、当月、イングランド銀行(BOE)および欧州中央銀行(ECB)は、政策金利を据え置きました。

【国内債券市場】

■ 当月の国内債券市場は、月中旬まで米国の信用収縮懸念の後退や総じて底堅さが示された日銀短観を受けて、軟調な推移となりました。しかし、月後半になると、米国における信用力の低い個人向け住宅融資（サブプライムローン）問題に関連する信用収縮懸念が再び高まり、債券が買い戻される動きとなりました。

■ 月前半は、サブプライムローン問題が落ち着きを取り戻し、それに伴う信用収縮の動きが後退し株式市場が堅調さを取り戻したことや、月初に発表された9月米雇用統計が予想を上回ったこと等から、米国債券は軟調となりました。国内債券市場は、このところ米国債券動向と高い連動性を維持していることから、この動きを受けて軟調推移となりました。月初発表の日銀短観が総じて景況感の底堅さを示したことも、日本株式市場と利上げ観測を下支えする要因となりました。

■ 月後半に入ると、米大手金融機関の決算発表により、サブプライムローン問題に伴う信用収縮懸念が再燃し、株式市場の大幅な下落と債券の堅調な動きにつながりました。米大手金融機関が厳しい決算発表強いられたことから、サブプライムローン問題の余波は大きく、不確実性の増大につながり、月末の米連邦公開市場委員会(FOMC)での追加的利下げ期待が高まりました。この懸念は米国株価の急落と米国債券の大幅高につながり、国内金融市場にも同様の動きが波及する結果となりました。

月末には国内企業の決算発表は総じて堅調であったことから、国内株式は買い戻され、日銀は政策変更を見送ったものの、債券は軟調な動きを見せる結果となり

《参考指標》

		2007年9月末	2007年10月末	変化率
日本	TOPIX(東証株価指数)	1616.62 ポイント	1620.07 ポイント	0.21%
	日経平均	16785.69 円	16737.63 円	-0.29%
	新発10年国債	1.675 %	1.600 %	0.075低下
米国	NYダウ	13895.63 ドル	13930.01 ドル	0.25%
	S&P500	1526.75 ポイント	1549.38 ポイント	1.48%
	NASDAQ	2701.50 ポイント	2859.12 ポイント	5.83%
	10年国債	4.587 %	4.471 %	0.116低下
欧州	FT100	6466.80 ポイント	6721.60 ポイント	3.94%
	CAC40	5715.69 ポイント	5847.95 ポイント	2.31%
	DAX	7861.51 ポイント	8019.22 ポイント	2.01%
	独10年国債	4.329 %	4.239 %	0.090低下
為替	米ドル/円レート	115.43 円	114.78 円	0.56%円高
	ユーロ/円レート	163.38 円	165.68 円	1.41%円安

＊各国10年国債は、ジェネリック日本指標国債10年単利（日本）、ジェネリック米国利回り10年（米国）、ドイツ国債10年の利回り（欧州）を表示しております。
＊為替は、株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値を採用しております。

特別勘定の資産内容について（2007年10月）

【特別勘定のINDEXの推移】

「特別勘定のＩＮＤＥＸ」とは、弊社が変額保険「Ｇｌｏｂａｌ Ｍｉｘ」に係る資産の管理・運用を行っている特別勘定の資産運用状況を表す指数をいいます。この数値は毎日増減し、ご契約の積立金の金額もこれにともない増減いたします。

日付	INDEX
2006/11/30	0.977
2006/12/31	0.997
2007/1/31	1.007
2007/2/28	1.009
2007/3/31	1.009
2007/4/30	1.017
2007/5/31	1.027
2007/6/30	1.025
2007/7/31	1.007
2007/8/31	0.993
2007/9/30	1.007
2007/10/31	1.009

【騰落率】

過去1ヶ月	過去6ヶ月	過去1年	過去2年	過去3年	設定来
0.19%	-0.75%	3.42%	9.26%	21.80%	0.92%

注）設定日である２０００年８月１日を１．００としたパフォーマンスを示しています。
注）騰落率とは、一定期間における運用実績の変動率のことです。
注）上記の数値は過去の運用実績であり、将来の結果をお約束するものではありません。
注）この運用実績は、ご契約者の支払われた保険料から死亡保障額等に当てられるものを控除した部分の伸び率です。

【特別勘定資産の内訳】

項目	金額（千円）	構成比（%）
預貯金・コールローン	764,805	2.0
日本株式型投資信託①（アクサＲ）	3,788,601	9.8
日本株式型投資信託②（アクサＲ）	5,652,354	14.6
米国株式型投資信託（アクサＲ）	5,714,086	14.8
欧州株式型投資信託（アクサＲ）	3,856,769	10.0
日本債券型投資信託（アクサＲ）	18,381,316	47.6
その他	497,886	1.3
特別勘定合計	38,655,820	100.0

注）金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第2位を四捨五入しておりますが、合計値に対する調整は行っておりません。

【保有契約高】

項目	件数（件）	金額（千円）
有期型	1,136	2,631,962
終身型	57,737	312,538,227
合計	58,873	315,170,189

注）金額の単位未満は切り捨てとしました。

【特別勘定の解説】

■ 当特別勘定は原則として、５０％を安全資産での運用にしております。
■ 積極的な運用を目指す株式部分は、当面日本株で全体の２５％、欧米株式で２５％の資産配分といたします。
■ リスク分散の観点から、少数銘柄に偏ることなく、資産種類および各資産ごとでの分散投資を心掛け、バランスのとれた運用を行います。

【今後の運用方針】

■ 特別勘定の運用資産における株式と債券の組入れ比率は現行水準を継続します。また、投資対象を幅広く分散することでより安定的な運用を行ってまいります。

（アクサ生命保険株式会社　ファンド・マネジメント部）

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020　東京都港区白金1－17－3　TEL　03-6737-7777（代表）
編集・発行　アクサ生命保険株式会社　契約管理センター

日本株式ファンド（運用会社：アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社）

[運用方針]： わが国の証券取引所上場株式および店頭登録銘柄に投資し、信託財産の中・長期的な成長を目指します。割安でかつ成長性の高い銘柄を中心に投資することで、安定的にベンチマークを中・長期的に上回る運用成果を目指します。「アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド（A）＜適格機関投資家私募＞」に投資します。

[ベンチマーク]： TOPIX

【運用状況】

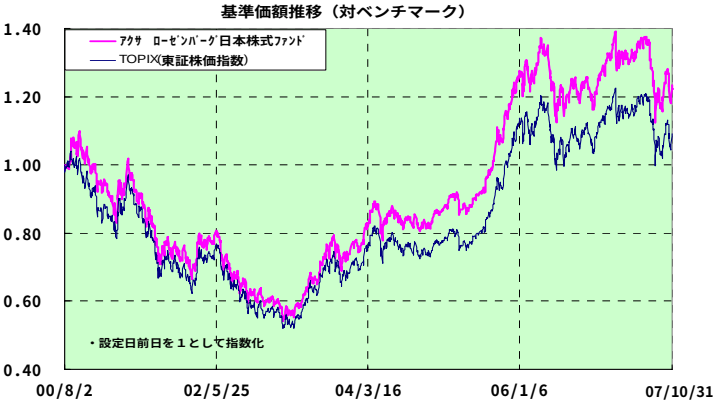
当月は、ベンチマークであるTOPIXが+0.21%であったのに対し、当ファンドは、▲0.51%となり、▲0.72%のアンダーパフォームとなりました。
当月の日本株式市場は、株価純資産利回りの高い銘柄が相対的に下落する傾向にあり、当ファンドではこれらの銘柄をベンチマーク比で多めに保有していたことがマイナスに寄与しました。
業種別では、下落した金属製品や電気機器をベンチマーク比で多めに保有していたことや、上昇した銀行業を少なめに保有していたことは、いずれもマイナスへの寄与となりました。
個別銘柄では、下落したジェイ エフ イー ホールディングス(5411)や新日本製鐵(5401)をベンチマーク比で多めに保有していたことや、上昇した三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ(8306)を少なめに保有していたことはいずれもマイナスへの寄与となりました。

【今後の運用方針】

当ファンドの運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、ポートフォリオをベンチマークからの乖離が一定の範囲内に収まるよう構築することで、中・長期的な観点から安定的にベンチマークを上回る運用を目指します。
割安株の選別は、独自に開発したシステマティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行うことを基本とします。

(アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社 日本株式運用チーム)

基準価額推移（対ベンチマーク）



組入上位銘柄

	銘柄	業種	比率
1	トヨタ自動車	輸送用機器	4.3%
2	三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ	銀行業	2.8%
3	本田技研工業	輸送用機器	2.7%
4	キヤノン	電気機器	2.1%
5	新日本製鐵	鉄鋼	1.7%
6	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.7%
7	日本電信電話	情報・通信業	1.7%
8	松下電器産業	電気機器	1.6%
9	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	1.6%
10	三菱商事	卸売業	1.6%
合計			21.8%
組入銘柄数			360銘柄

＊上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

日本バリュー株式ファンド（運用会社：アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社）

[運用方針]： わが国の証券取引所上場株式および店頭登録銘柄に投資し、信託財産の中・長期的な成長を目指します。割安でかつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用成果を目指します。「アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B）＜適格機関投資家私募＞」に投資します。

[ベンチマーク]： TOPIX

【運用状況】

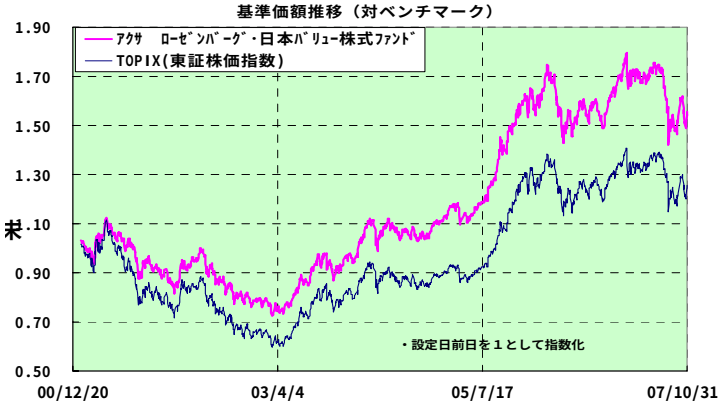
当月はベンチマークであるTOPIXが+0.21%となったのに対し、当ファンドは▲1.05%となり、▲1.26%のアンダーパフォームとなりました。
当月の日本株式市場は、株価純資産利回りの高い銘柄が相対的に下落する傾向にあり、当ファンドではこれらの銘柄をベンチマーク比で多めに保有していたことがマイナスに寄与しました。
業種別では、下落した金属製品や空運業をベンチマーク比で多めに保有していたことや、上昇した銀行業などを少なめに保有していたことは、いずれもマイナスに寄与しました。
個別銘柄では、上昇した任天堂を少なめに保有していたことや、下落したジェイ エフ イー ホールディングスや三菱重工業を多めに保有していたことはマイナスへの寄与となりました。

【今後の運用方針】

当ファンドの運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用を目指します。
割安株の選別は、独自に開発したシステマティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行うことを基本とします。

(アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社 日本株式運用チーム)

基準価額推移（対ベンチマーク）



組入上位銘柄

	銘柄	業種	比率
1	松下電器産業	電気機器	4.9%
2	日本電信電話	情報・通信業	4.0%
3	三菱商事	卸売業	3.6%
4	トヨタ自動車	輸送用機器	3.4%
5	ジェイ エフ イー ホールディングス	鉄鋼	3.4%
6	本田技研工業	輸送用機器	3.1%
7	三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ	銀行業	2.8%
8	富士通	電気機器	2.4%
9	富士フイルムホールディングス	化学	2.4%
10	三菱重工業	機械	2.3%
合計			32.3%
組入銘柄数			286銘柄

＊上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

注）ここでは、特別勘定から買付けるファンドのパフォーマンスを評価して います。特別勘定自体のINDEXではないことにご注意ください。

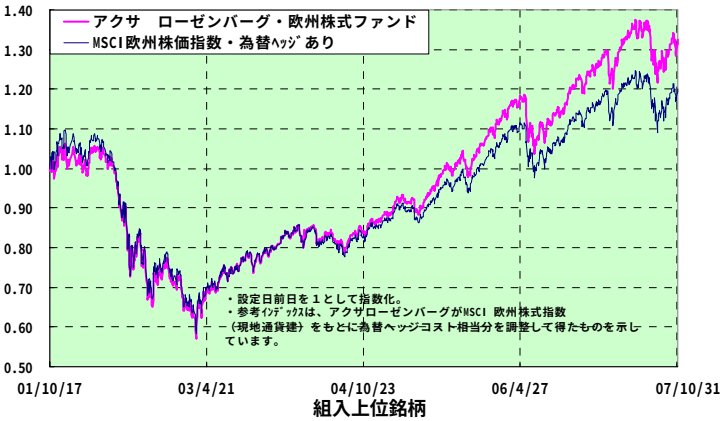
アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1－17－3 TEL 03-6737-7777（代表）
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

欧州株式ファンド（運用会社：アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社）

[運用方針]： 幅広い投資対象（欧州約3,500 社が対象）を一貫した統計的手法で分析し、独自のクオンツモデルによる銘柄選択を行い且つ、リスクを限定しつつ安定的にベンチマークを上回ることを目標とします。
「アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド（A）＜適格機関投資家私募＞」に投資します。

[ベンチマーク]： MSCI 欧州株式指数（為替ヘッジあり）

基準価額推移（対ベンチマーク）



[運用状況]

当月はベンチマークであるMSCI欧州株価指数が+1.46%であったのに対し、当ファンドは+1.25%となり、▲0.21%のアンダーパフォームとなりました。
当月の欧州株式市場は、配当利回りの高い銘柄が下落する傾向にあり、当ファンドではこれらの銘柄をベンチマークに比較して多めに保有していたことがマイナスに寄与しました。
業種別では、下落した卸売、旅行・娯楽などをベンチマーク比で多めに保有していたことや、上昇した輸送を少なめに保有していたことはいずれもマイナスに寄与しました。
個別銘柄では、テクノロジー製品・機器のEricsson(エリクソン、スウェーデン)、素材のBoliden(ボリデン、スウェーデン)や半導体・半導体製造装置のInfineon Technologies(インフィニオンテクノロジー、ドイツ)などを多めに保有していたことはマイナスに寄与しました。

[今後の運用方針]

当ファンドの運用方針は、欧州企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。
割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル（定量分析）等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行うことを基本とします。

（アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社）

組入上位銘柄

	銘柄	業種	比率
1	ボーダフォン・グループ PLC	電気通信サービス	2.6%
2	トタル SA	エネルギー	2.0%
3	ロイヤル・ダッチ・シェル-PLC-A-SHS	エネルギー	2.0%
4	BP PLC	エネルギー	1.9%
5	HSBCホールディングス PLC	銀行	1.8%
6	ダイムラー アー・ゲー	自動車・自動車部品	1.5%
7	アリアンツ SE	保険	1.5%
8	ネスレ	食品・飲料・タバコ	1.4%
9	ロイヤル・ダッチ・シェル-PLC-B-SHS	エネルギー	1.4%
10	ENI SPA	エネルギー	1.4%
合計			17.5%
組入銘柄数			314銘柄

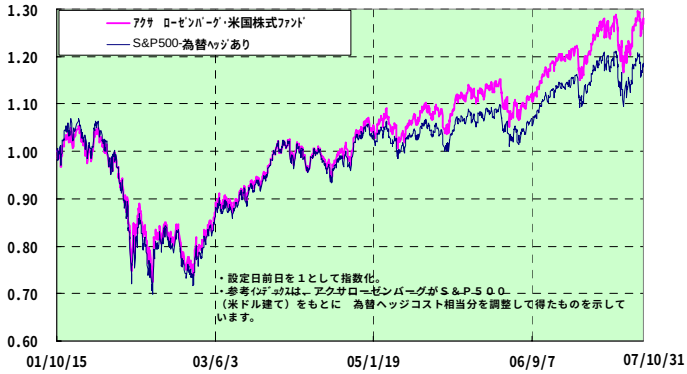
＊上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

米国株式ファンド（運用会社：アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社）

[運用方針]： 幅広い投資対象（米国約6,500 社が対象）を一貫した統計的手法で分析し、独自のクオンツモデルによる銘柄選択を行い且つ、リスクを限定しつつ安定的にベンチマークを上回ることを目標とします。
「アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド（A）＜適格機関投資家私募＞」に投資します。

[ベンチマーク]： S＆P500（為替ヘッジあり）

基準価額推移（対ベンチマーク）



[運用状況]

当月はベンチマークであるS&P500種株価指数が▲0.43%であったのに対し、当ファンドは+0.05%となり、+0.48%アウトパフォームとなりました。
当月の米国株式市場は、金利の上昇懸念から、債務借入の大きい企業が相対的に下落する基調にあり、当ファンドではこれらの銘柄ベンチマークに比べて少なめに保有していたことがプラスに寄与しました。
業種別では、上昇した化学、ソフトウェアをベンチマーク比で多めに保有していたことや、下落したITハードウェアを少なめに保有していたことはいずれもプラスへの寄与となりました。
個別銘柄では、上昇したテクノロジー製品・機器のApple Inc(アップル)やEMC CORP(EMCコーポレーション)、また素材のMONSANTO CO(モンサント・カンパニー)をベンチマーク比で多めに保有していたことはプラスに寄与しました。

[今後の運用方針]

当ファンドの運用方針は、米国企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。
割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行うことを基本とします。

（アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社）

組入上位銘柄

	銘柄	業種	比率
1	エクソン・モービル	エネルギー	3.9%
2	ゼネラル・エレクトリック	資本財	2.7%
3	シスコシステムズ	テクノロジー製品・機器	2.0%
4	シェブロン	エネルギー	1.8%
5	アップル	テクノロジー製品・機器	1.8%
6	ファイザー	医薬品・バイオテクノロジー	1.7%
7	マイクロソフト	ソフトウェア・サービス	1.7%
8	ヒューレット・パッカード	テクノロジー製品・機器	1.5%
9	エイ・ティ アンド ティ	電気通信サービス	1.5%
10	コノコフィリップス	エネルギー	1.5%
合計			20.1%
組入銘柄数			283銘柄

＊上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

注）ここでは、特別勘定から買付けるファンドのパフォーマンスを評価しています。特別勘定自体のINDEXではないことにご注意ください。

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1－17－3 TEL 03-6737-7777（代表）
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

日本債券ファンド（運用会社：アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社）

[運用方針]： 主としてわが国ならびに外国の公社債投資を行い、安定した収益の確保を目指して運用を行います。「アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) <適格機関投資家私募>」に投資します。

[ベンチマーク]：日興債券ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ・ｲﾝﾃﾞｯｸｽ中期総合

[運用状況]

当月はベンチマークが+0.62%で、ファンドは+0.57%の上昇となりました。
景気、物価情勢は概ね日銀の展望に沿う形で推移してきているものの、消費関連指標に力強さは見られないことから、力強い経済成長を期待することは難しい環境です。世界経済の不確実性も依然として払拭されないことから、更なる金利低下余地は限定的であるものの、日銀による早急な金利正常化もまた難しくなるとの判断を維持しました。したがって、月初、9月下旬にリスク回避の観点から、一旦中立水準に戻したデュレーションを再度長期化しました。日銀短観では総じて景況感の堅調さが示されたものの、大企業と中小企業の景況感に依然として開きがあることが確認されました。また、地域間での景況感のギャップも依然として大きく、国内景気の力強い回復には今しばらく時間が必要との見方を強めました。デュレーションの長期化は月間を通してみると、小幅にプラスの寄与となりましたが、イールドカーブのスティープ化（勾配化）やサムライ債の金融セクターが対国債で軟調であったこと等がマイナス要因となり、全体では、対ベンチマークで小幅マイナス(▲0.04%)となりました。

信託財産の構成

	組入比率	ﾃﾞｭﾚｰｼｮﾝ
公社債	99.2%	4.45年
短期資産等*	0.8%	24.85年
合計	100.0%	4.61年

* 債券先物を含む

[今後の運用方針]

足元の消費者物価指数はゼロ近傍となっているものの、景気、物価動向は概ね日銀の展望に沿った形で推移しており、日銀は、今後も金利の正常化を意識した金融政策を続けて行くものと思われます。しかし、外的要因としての米サブプライムローン問題の波及等依然として不確実要素が存在しており、日銀は再度、それらの点について詳細に点検を行う必要があると考えられます。当月も利上げを見送っており、米国が利下げを行うなど、依然として不確実性を強く意識しなければならない環境であると言えます。当面は、米国における信用力の低い個人向け住宅融資（サブプライムローン）問題の拡大や長期化、及び国内景気動向への影響を十分に意識しながらの舵取りとなるため、金利正常化を急ぐことは難しいと思われます。また、不確実性の高まりは金利の振れ幅拡大につながる可能性が高く、その点を注視して運用を行う必要があると思われます。当面は、国内要因のみならず外的要因の影響についても大いに注視をして行く方針です。
(アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社 日本債券運用チーム)

公社債の内訳

	組入比率	ﾃﾞｭﾚｰｼｮﾝ
国債	85.1%	4.7年
地方債	0.0%	0.0年
特殊・財投債	1.8%	3.57年
金融債	0.4%	2.62年
社債等	11.8%	2.84年
コールローンその他*	0.8%	24.85年
合計	100.0%	4.61年

* 債券先物を含む

格付別債券構成比率

格付区分**	構成比率
AAA	1.8%
AA	91.8%
A	5.9%
BBB	0.5%
BB以下	0.0%
合計	100.0%

** S&P格付を優先

注）ここでは、特別勘定から買付けるファンドのパフォーマンスを評価しています。特別勘定自体のINDEXではないことにご注意ください。

注意事項

○変額保険の仕組み
変額保険とは、保険金額が「特別勘定」の資産運用実績にもとづいて変動する生命保険です。
*特別勘定とは、変額保険にかかわる資産の管理・運用を行うもので、他の保険種類にかかわる資産とは区分し、独立して管理・運用を行います。

○変額保険のリスクについて
①市場リスク
特別勘定の資産運用には、株価の低下や為替の変動等による投資リスクがあります。場合によっては、お受け取りになる保険金額（有期型の場合、満期保険金を含む）や解約払いもどし金額の合計額が、払い込まれた保険料の合計額を下回る可能性があります。なお運用実績にかかわらず、死亡・高度障害時保険金は保証されています。

②信用リスク
万一、引受生命保険会社が経営破綻に陥った場合、ご契約時にお約束した給付金等の金額が削減されることがあります。その場合、生命保険契約者保護機構により、保険契約者保護の措置が図られることがありますが、この場合にも、ご契約時の給付金等の金額が削減されることがあります。

契約月別の運用実績の例

（一時払、男性40歳加入、基本保険金額1,000万円の場合。但し、有期型の場合は、保険期間10年）

契約日	終身型		有期型		契約月別運用実績（%）	年複利（%）
	保険金額（万円）	変動保険金額（万円）	保険金額（万円）	変動保険金額（万円）		
平成12年 8月 1日	1,000	-291	1,000	-254	0.92	0.13
平成12年 9月 1日	1,000	-300	1,000	-263	-0.57	-0.08
平成12年 10月 1日	1,000	-275	1,000	-238	2.27	0.32
平成12年 11月 1日	1,000	-253	1,000	-217	4.58	0.64
平成12年 12月 1日	1,000	-229	1,000	-194	7.25	1.02
平成13年 1月 1日	1,000	-206	1,000	-172	9.62	1.35
平成13年 2月 1日	1,000	-219	1,000	-185	7.62	1.09
平成13年 3月 1日	1,000	-179	1,000	-146	12.21	1.74
平成13年 4月 1日	1,000	-155	1,000	-123	14.73	2.11
平成13年 5月 1日	1,000	-181	1,000	-148	11.08	1.63
平成13年 6月 1日	1,000	-172	1,000	-140	11.76	1.75
平成13年 7月 1日	1,000	-156	1,000	-124	13.31	1.99
平成13年 8月 1日	1,000	-126	1,000	-94	16.65	2.49
平成13年 9月 1日	1,000	-81	1,000	-51	21.66	3.23
平成13年 10月 1日	1,000	-26	1,000	1	27.88	4.13
平成13年 11月 1日	1,000	-44	1,000	-15	25.26	3.82
平成13年 12月 1日	1,000	-50	1,000	-21	24.10	3.72
平成14年 1月 1日	1,000	-49	1,000	-20	23.71	3.72
平成14年 2月 1日	1,000	-17	1,000	10	27.09	4.26
平成14年 3月 1日	1,000	-25	1,000	2	25.68	4.12
平成14年 4月 1日	1,000	-40	1,000	-12	23.39	3.84
平成14年 5月 1日	1,000	-32	1,000	-3	23.93	3.98
平成14年 6月 1日	1,000	-34	1,000	-6	23.22	3.93
平成14年 7月 1日	1,000	8	1,000	36	27.99	4.74
平成14年 8月 1日	1,000	48	1,000	77	32.43	5.50
平成14年 9月 1日	1,000	52	1,000	81	32.43	5.59
平成14年 10月 1日	1,000	87	1,000	116	36.19	6.27
平成14年 11月 1日	1,000	91	1,000	119	36.17	6.37
平成14年 12月 1日	1,000	76	1,000	104	33.81	6.10
平成15年 1月 1日	1,000	108	1,000	137	37.32	6.78
平成15年 2月 1日	1,000	139	1,000	169	40.60	7.44
平成15年 3月 1日	1,000	148	1,000	178	41.15	7.67

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1－17－3 TEL 03-6737-7777（大代表）
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

契約日	終身型		有期型		契約月別運用実績（%）	年複利（%）
	保険金額（万円）	変動保険金額（万円）	保険金額（万円）	変動保険金額（万円）		
平成15年 4月 1日	1,000	153	1,000	183	41.32	7.84
平成15年 5月 1日	1,000	135	1,000	165	38.44	7.50
平成15年 6月 1日	1,000	120	1,000	149	36.06	7.22
平成15年 7月 1日	1,000	100	1,000	129	33.20	6.84
平成15年 8月 1日	1,000	90	1,000	119	31.51	6.66
平成15年 9月 1日	1,000	82	1,000	111	30.05	6.51
平成15年 10月 1日	1,000	81	1,000	110	29.48	6.53
平成15年 11月 1日	1,000	70	1,000	98	27.71	6.30
平成15年 12月 1日	1,000	76	1,000	104	27.91	6.49
平成16年 1月 1日	1,000	65	1,000	93	26.18	6.25
平成16年 2月 1日	1,000	54	1,000	82	24.39	5.99
平成16年 3月 1日	1,000	43	1,000	70	22.63	5.72
平成16年 4月 1日	1,000	30	1,000	57	20.66	5.38
平成16年 5月 1日	1,000	33	1,000	60	20.61	5.50
平成16年 6月 1日	1,000	46	1,000	74	21.66	5.91
平成16年 7月 1日	1,000	36	1,000	63	20.02	5.63
平成16年 8月 1日	1,000	57	1,000	84	21.97	6.30
平成16年 9月 1日	1,000	58	1,000	86	21.73	6.41
平成16年 10月 1日	1,000	61	1,000	88	21.54	6.53
平成16年 11月 1日	1,000	67	1,000	95	21.80	6.80
平成16年 12月 1日	1,000	57	1,000	84	20.20	6.51
平成17年 1月 1日	1,000	43	1,000	70	18.19	6.08
平成17年 2月 1日	1,000	46	1,000	73	18.07	6.23
平成17年 3月 1日	1,000	33	1,000	60	16.21	5.80
平成17年 4月 1日	1,000	35	1,000	62	16.00	5.91
平成17年 5月 1日	1,000	54	1,000	82	17.77	6.76
平成17年 6月 1日	1,000	45	1,000	73	16.33	6.46
平成17年 7月 1日	1,000	35	1,000	62	14.76	6.08
平成17年 8月 1日	1,000	25	1,000	52	13.24	5.68
平成17年 9月 1日	1,000	21	1,000	48	12.40	5.54
平成17年 10月 1日	1,000	-8	1,000	17	8.66	4.07
平成17年 11月 1日	1,000	0	1,000	26	9.26	4.53
平成17年 12月 1日	1,000	-21	1,000	-21	6.43	3.31
平成18年 1月 1日	1,000	-36	1,000	-35	4.52	2.44
平成18年 2月 1日	1,000	-46	1,000	-45	3.06	1.74

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1－17－3 TEL 03-6737-7777（大代表）
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

契約日	終身型		有期型		契約月別運用実績（%）	年複利（%）
	保険金額（万円）	変動保険金額（万円）	保険金額（万円）	変動保険金額（万円）		
平成18年　3月　1日	1,000	-37	1,000	-37	3.60	2.14
平成18年　4月　1日	1,000	-42	1,000	-42	2.67	1.68
平成18年　5月　1日	1,000	-37	1,000	-37	2.88	1.91
平成18年　6月　1日	1,000	0	1,000	0	6.41	4.48
平成18年　7月　1日	1,000	0	1,000	0	6.05	4.51
平成18年　8月　1日	1,000	3	1,000	3	6.03	4.80
平成18年　9月　1日	1,000	-12	1,000	-37	3.98	3.40
平成18年　10月　1日	1,000	-9	1,000	-31	3.91	3.61
平成18年　11月　1日	1,000	-10	1,000	-29	3.42	3.42

注（1）保険金額は、基本保険金額に変動保険金額を加えた保障額を示したものです。ただし、変動保険金額が負値の場合、保険金額は基本保険金額を表示しています。

（2）契約月別運用実績は、契約時点に特別勘定に投入した金額の平成19年10月末までの運用実績を示したものです。
なお、この運用実績は、ご契約者の支払われた保険料から死亡保障額等に当てられたものを控除した部分の伸び率です。

（3）年複利は、契約月別運用実績を年複利換算したものです。

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020　東京都港区白金1－17－3　TEL　03-6737-7777（大代表）
編集・発行　アクサ生命保険株式会社　契約管理センター